

平成 21 年 4 月 11 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2007～2008

課題番号：19530234

研究課題名（和文）

EU の安定化・連合プロセスと西バルカンの経済発展に関する実証的研究

研究課題名（英文）

An Empirical Study on the European Union's Stabilization and Association Process and Economic Development in the Western Balkans

研究代表者

小山 洋司 (KOYAMA YOJI)

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：40036588

研究成果の概要：EU の誘導（安定化・連合プロセス）により、西バルカン諸国でいかに改革と経済発展が進み、EU 加盟に向けて前進したかを 2 年間研究した。その結果、経済改革、外国直接投資（FDI）流入、EU 加盟に向けた準備の点で、西バルカン諸国の中でも大きな地域差があることが再確認できた。CEFTA（中欧自由貿易協定）を利用して、西バルカン諸国のための自由貿易の枠組みが形成されたこと、また、インフラ・エネルギー（電力・ガス）の分野での域内協力が徐々に進んでいるが確認できた。英文の報告書 A Study on the European Union's Stabilization and Association Process and Economic Development in the Western Balkans（60 頁）を 2009 年 3 月末に刊行し、直ちに外国の研究者（約 200 人）と国内の研究者（約 120 人）に送付した。研究期間に発表した雑誌論文は 10 件、学会発表 6 件、図書 2 件である。

交付額

2,340,000（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済政策

キーワード：経済体制

1. 研究開始当初の背景

民族紛争を経験し、今なお大きな国内問題を抱える西バルカン諸国にとって、EU 加盟の展望は外部アンカーの役割を果たすと考えられる。EU 加盟を実現するためには、各国は経済改革を実施しなければならない。経済改革の進展は投資環境の改善に寄与し、外国直接投資（FDI）流入の増加をもたらすであろう。これまでの対立の歴史を引きずって

いるため、地域経済協力は西バルカンの内発的な要求ではないが、EU の側からの強力な誘導があれば、地域経済協力は前進すると考えられる。地域経済協力の進展は地域全体の魅力を高め、FDI 流入の増加をもたらすと考えられる。また、各国政府の FDI 誘致政策が功を奏せば、FDI 流入も増加するであろう。FDI 流入の増加は西バルカン諸国の経済発展を促進し、この地域の安定化に寄与するも

のと考えられる。

2. 研究の目的

次の点を具体的に明らかにする。(1) 西バルカン諸国は、EU 加盟に備えて、コペンハーゲン基準やその他の基準を満たすよう経済改革の実施を要請されているが、経済改革は各国でどの程度進展したのか。(2) 西バルカン諸国はどのように投資環境を改善してきたのか。そのさい、先に EU 加盟を果たした中欧やバルト諸国の経験はどの程度参考になるのか。(3) EU は、停滞している西バルカンの域内の経済やその他の分野での協力をどのようにして促進しようとしているのか、また、各国もどのような努力をしているのか。(4) 西バルカン諸国における EU 加盟に向けた動きはどの程度前進したのか、そして最終的に EU 加盟を果たすまでに各国はどのような課題に迫られているのか。

3. 研究の方法

(1) ウィーン比較経済研究所 (WIIW) の Research Report や Business Monitor 社 (ロンドン) の Monthly Report などを通じて、西バルカンの動向を把握する。(2) 西バルカン諸国における FDI の動向を次のように分析する。① 毎年の流入額、累積額、1 人当たりの累積額等の変化を統計的に分析する。② 各国の FDI 誘致政策の分析、③ 各国における投資先の分析、④ 投資家の側、すなわち FDI の出し手の分析。(3) 現地を訪問し、政府関係者、実務家および研究者に会い、聞き取り調査をする。2007 年 9 月にアルバニア、マケドニア、セルビアの 3 カ国を現地調査し、2008 年 9 月にはクロアチアを現地調査する。

4. 研究成果

(1) 経済改革、FDI 流入、EU 加盟に向けた準備の点で、西バルカン諸国の中でも以下のように、大きな地域差があることが再確認できた。

① アルバニアは 1991 年に市場経済移行を開始したが、過去からの負の遺産 (40 年以上続いた極端にスターリン主義的な社会主義と孤立政策、1912 年まで約 500 年続いたオスマン・トルコの支配等からの) があまりにも大きく、市場経済への移行と改革の前進において困難を抱えている。法の支配の定着や組織犯罪との闘いで立ち遅れている。政治においては複数政党制ができあがったものの、二大政党の指導者たちは旧共産党の出身であり、そのときの行動様式を引きずっている。体制転換と共に国が開放され、多くの国民が外国へ出稼ぎ、移住等で流出するようになった。これらの人々による送金がアルバニア経済の発展を支えているという側面もあるが、国内で望まれる政治や経済界の指導者の出現

という点では人材の流出は否定的に作用している。電気・水道といった基礎的なインフラの未整備で FDI 流入は少ない。アルバニアにおける改革のこれまでの前進は、改革の実施を条件とした EU の資金的・技術的支援によるところが大きいと考えられる。2006 年 3 月、EU はアルバニアと安定化・連合協定 (SAA) を締結した。

② セルビアでは、2000 年 10 月にミロシェヴィチ体制が崩壊し、民主的な政府が成立したことにより、国連、IMF、ヨーロッパ復興開発銀行、世界銀行に復帰を果たすことができ、セルビア (当時は新ユーゴ) は国際的な孤立からようやく抜け出した。しかし、相次ぐ戦争 (1992-95 年のボスニア戦争; 1999 年のコソボ戦争) と国連制裁により、経済は疲弊していた。2001 年以降、積極的な経済改革、国営企業の民営化、FDI 誘致政策により、経済は徐々に発展しつつある。依然として、コソボ問題がこの国に重くのしかかっている。コソボは 1999 年 6 月以降、事実上国連の保護領的存在であった。コソボはセルビア領だとする点ではすべての政党は一致しているが、EU 加盟を優先するかどうかで分かれている。コソボの地位をめぐる交渉は難航し、2007 年 2 月のアハティサリ国連特使の勧告を経て、2008 年 2 月、コソボは「独立」を宣言した。コソボ「独立」との関連で、セルビアでは政治的に不安定な状態が続いた。2008 年 1 月の大統領選挙で親 EU の民主党のタディッチが勝利し、同年 2 月の総選挙を受けて、6 月に民主党主導の連立政権が発足したことにより、EU 加盟への歩みが前進した。EU はセルビアをつなぎ止めるために、2008 年 6 月に SAA を締結した。

③ マケドニアは西バルカンでは一番早く 2001 年 4 月に EU と安定化・連合協定を締結し、いまは EU 加盟候補国である。しかし、コソボ戦争 (1999 年) で最終的には NATO に支援されたアルバニア人が勝利したことに触発されたマケドニア国内の少数民族アルバニア人が権利の拡大と連邦制を要求して決起し、政府の警察・軍と衝突を繰り返し、2001 年 6 月には内戦寸前の状態に陥った。これは EU の仲介で、同年 8 月に成立した「オフリード合意」(アルバニア人の権利拡大等を内容とする) により解決され、いまはこの国は比較的安定している。しかし、このときの印象が非常に強く、この国は政治的に不安定だと見られ、いまだに FDI 流入が極めて少なく、経済発展も非常に緩慢である。改革も遅れている。加盟候補国ではあるが、EU との加盟交渉はまだ始まっていない。

④ クロアチアは 2001 年 10 月にマケドニアに次いで EU と SAA 締結し、いまは EU 加盟候補国である。2009 年 4 月には、西バルカンの他の国々に先駆けて NATO 加盟を実現した。改

革が進み、ICTY（ハーグにある旧ユーゴ戦犯法廷）への協力も評価され、2005年3月にEUとの加盟交渉開始で合意し、2006年10月に本格交渉に入った。FDI流入も順調であり、西バルカン諸国の中では最も豊かである。

⑤モンテネグロは1990年代後半からセルビアとは距離をおき始め、2003年2月の国家連合結成を経て、2006年6月に独立した。2007年3月にEUとSAAを締結した。ボスニア・ヘルツェゴヴィナ（国家）は事実上2つのエンティティ（国家内国家）で構成されて、民族間の融和が依然として重要な課題である。国家レベルの権限を強化し、機構統合する課題があるが、なかなか進んでいない。国際社会からの委託を受けたボスニア上級代表事務所がまだしばらく活動を続けることが不可欠である。ボスニアは2008年6月、EUとSAAを締結した。

(2) EUは西バルカンにおいては地域的アプローチを重視している。この分野では以下の点を確認できた。EUの後押しで、南東欧7カ国（ブルガリアとルーマニアを除くバルカン）が2001年6月に「貿易の自由化と促進に関する了解覚書」を締結し、その後、2国間ベースで合計28の自由貿易協定が締結されたが、域内経済協力は進まなかった。このような状況を打開するために、CEFTA（中欧自由貿易協定）を活用することで2006年4月に合意が得られた。原加盟国の中欧諸国はEU加盟を実現した2004年5月にCEFTAを「卒業」し、後に加盟したブルガリアとルーマニアもEU加盟を実現した2007年1月に「卒業」した。CEFTAは西バルカン諸国およびモルドヴァを包摂する自由貿易の枠組みとなったが、まだ十分機能しているとは言い難い。そのほか、インフラ・エネルギー（電力・ガス）の分野での域内協力が徐々に進んでいる。

(3) 最終年度にあたり、論文 *Albania Aiming at the EU Accession and Her Challenges* および論文「コソボ独立の諸問題」の英訳と2007年9月ならびに2008年9月の現地調査についての簡単な報告（英文）をまとめて、英文の報告書 *A Study on the European Union's Stabilization and Association Process and Economic Development in the Western Balkans* (60頁) を2009年3月末に刊行した。そして、直ちに外国の研究者（約200人）と国内の研究者（約120人）に送付した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計10件）

- ① 小山洋司、Experiences of Japan and South Korea in the Process of Catching-up, 『新潟大学経済論集』第85号、1-21、2008、査

読無

- ② 小山洋司、Impact of the EU Enlargement on New and Old Member States, Proceedings of the International Conference “World Economy and Korea VII”, held in Seoul, 525-544, 2008、査読無
- ③ 小山洋司、「コソボ独立をめぐる諸問題」、『海外事情』、第56巻、第4号、80-100、2008、査読無
- ④ 小山洋司、「ポーランドにおける外国直接投資の動向」、『新潟大学経済論集』第84号、1-17、2008、査読無
- ⑤ 小山洋司、Transition and European Integration of Bulgaria and Romania: Overcoming Negative Legacies from the Past and New Challenges, Montenegrin Journal of Economics, Vol. III, No.6, 55-69, 2007、査読有
- ⑥ 小山洋司、Bulgaria's Efforts for Transition and European Integration, Proceedings of the International Conference for the 70th Anniversary of the Faculty of Economics of the University of Belgrade, 181-189, 2007、査読無
- ⑦ 小山洋司、EU's Southeastward Enlargement and Challenges for the West Balkans, 『新潟大学経済論集』第83号、55-72、2007、査読無
- ⑧ 小山洋司、「EUの南東方拡大と西バルカンの課題」、『欧州統合の課題と行方 日本EU学会年報』第27号、99-123、2007、査読有
- ⑨ 小山洋司、「10年遅れで始まったセルビアの市場経済移行と欧州統合」、『ロシア・ユーラシア経済—研究と資料—』第901号、29-41、2007、査読無
- ⑩ 小山洋司、「EU単一市場に加盟した東欧・バルト諸国」、『海外事情』第55巻、第6号、52-65、2007、査読無

〔学会発表〕（計6件）

- ① 小山洋司、Albania Aiming at the EU Accession and Her Challenges, EACES Asian Workshop in Kyoto, 2009年2月27日（京都大学経済研究所）
- ② 小山洋司、Impact of EU's Eastward Enlargement on New and Old Member States, International Conference “World Economy and Korea VII”, held in Seoul, 2008年6月20日、財政研究所（ソウル）
- ③ 小山洋司、東欧における外国直接投資の動向、比較経済体制学会秋期大会、2007年10月27日（法政大学）
- ④ 小山洋司、Bulgaria's Efforts for Transition and European Integration, International Conference for the 70th Anniversary of the Faculty of Economics of the University of

Belgrade, 2007年9月28日 (ベオグラード大学経済学部)

- ⑤ 小山洋司、Experiences of Japan and South Korea in the Process of Catching-up, CES Annual China Conference 2007 “Economic Transition, Regional Growth, Sustainable Development”, held in Changsha, China, 2007年7月29日 (中国湖南省長沙)
- ⑥ 小山洋司、Transition and European Integration of Bulgaria and Romania: Overcoming Negative Legacies from the Past and New Challenges, Warsaw East European Conference, 2007年7月17日 (ワルシャワ大学)

[図書] (計2件)

- ① 小山洋司、*Transition, European Integration and Foreign Direct Investment in Central and Eastern European Countries*, Graduate School of the Niigata University, NUSS, Vol.9, 242p, 2008, 査読有
- ② 小山洋司、富山栄子『東欧の経済とビジネス』創成社、286頁+xiv、うち、「はしがき」(iii-viii、共著)、第1章「体制転換とEU加盟」(1-22)、第2章「EU加盟後の中欧・バルト諸国」(23-55)、第3章「外国直接投資の動向」(57-89)、第9章「ブルガリアとルーマニアのEU加盟」(233-259)、第10章「西バルカン」(261-279)、2007、査読無

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小山洋司 (KOYAMA YOJI)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：40036588

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし